



ゆたか福祉会キャラクター  
ゆたかめくんとみらいちゃん

# 障害者の ゆたかな未来をめざして

# 11



「中秋の名月」グループホーム宝南の家のみなさん  
※紹介が9ページにあります。

## CONTENTS

- ▶ 私たちの実践 ～食と健康推進委員会～ ..... P2～3
- ▶ 3回目の成人式を迎えました！ ..... P11～16

2024年11月10日 毎月1回10日発行 一部200円（法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます）

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会 〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3  
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358 <https://www.yutakahonbu.com/>



愛知県ファミリー・  
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会

検索

# シリーズ 私たちの実践 ～食と健康推進委員会～ ②

## 本人・家族の願いをもとに行った「食」の実践

### ゆたかな暮らしの実現を目指して

ゆたか希望の家で暮らしている俊さん（仮名）。2023年10月に転倒して左足を骨折し、入院して治療。11月にインフルエンザ罹患、12月に誤嚥性肺炎で入院と、様々な出来事が重なってしまいました。

退院前に、家族、管理栄養士、言語聴覚士（以後、ST）で食事見学に行きました。病院では点滴での栄養摂取が基本で、昼食のみSTが介助しながら食事をしていました。

主治医の病状説明では、嚥下検査の結果が悪かった場合、「経管栄養を実施できる施設に入所する」か、「嚥下のリスクはあるが、口から食べていくか」の二つの選択肢を示されました。さらに「口から食べることを選択すると、誤嚥性肺炎を繰り返した場合は、どこまで治療するかを事前に話し合っておきたい」と説明がありました。

### 本人・家族の願い

病状説明後、家族と所長、サピスマ管理責任者（以後、サピ管）、

管理栄養士で今後の生活に向けて話し合いをしました。

ご両親からは「リスクがあっても、口から食べてほしい」「大好きなコーヒーを飲んだり、お寿司を食べられるようになってほしい」「医療対応が出来る施設で数年長生きするよりは、寿命が縮まる可能性があるかもしれないが、本人が好きなこの場所で本人らしく過ごしてほしい」と明確な回答がありました。

俊さんはまだ46歳と若く、様々な可能性があります。ご本人の食べようとする姿、そしてご家族の言葉は、私たち職員に「これまでの実践から、新たな実践へ一歩踏み出す勇氣」をいただくことになりました。

### 医療連携体制の検討

退院に伴い、主治医の検討を行いました。誤嚥性肺炎の予後だけでなく、「本人・家族がどうしたいか」を一緒に考えてきた経験があり、以前にも利用者の看取りの際にお世話になった先生を、ご家族に紹介しました。

主治医変更後の往診初回時には、お父様も参加され、今後の治療方

針の確認と、ご家族の思いを話されました。その後、医師と所長で話し合い、誤嚥性肺炎防止のための制限ある生活ではなく、本人・家族の願いを叶えることを目指して、医療と福祉の連携をしていくことになりました。

### 食事形態の検討

入院前、俊さんは米飯・普通食を自力摂取していました。しかし嚥下検査の結果、「とろみ付き全粥」「とろみ付き粒ありペースト食」「水分とろみ付き」が食事全介助となりました。

初めて「とろみ付き粒ありペースト食」を作るにあたり、①「トロミの硬さ」、②「粒の大きさ」を検討する必要性がありました。①については、「水分のトロミ量が中トロミである」という事前情報があり、その硬さを基準にしましたが、食材によって水分量・出来上がりペーストの硬さが違いました。

②については、咀嚼嚥下能力の違いで「粒あり」と「粒なし」と評価されます。「粒なし」にしても食べ、ゼリー食にするのとなんの違



誕生日ケーキいただきます

いもありません。①②を解決するために、厨房部だけでなくSTも一緒に食べ比べなどを行いました。最終的にブレンドで8秒回した後、水分やトロミ剤で硬さを調節し、最後に上から中トロミの硬さの水溶きトロミ液をかける。それでも硬さ調整が必要な場合は、「支援員が水やトロミで調整する」という方法で定着していきました。

また「とろみ付き全粥」も、希望の家では初めての食事形態でした。それまでの「全粥」は、軟飯を炊いて水分で伸ばしたもので、一般的な「全粥」とは違うものでした。この機会にそれまでの全粥は「加水軟飯」と名称を変えました。専用のお粥炊飯器を購入し、全粥に対するトロミ使用量は、病院での提供量にのっとりしました。それでも日によって、トロミの硬さに差があり、調整が必要な状態が続きました。

## 家庭帰省の実施

家庭帰省を目標に、多職種会議で様子の交流・支援方針の確認を行いました。退院後は希望の家の生活、食事支援を安定させる事を目標としました。足の治療、リハビリ職による立位保持・歩行訓練を行い、少しずつ低下した筋力・体力も取り戻し始めました。

2月に家庭帰省の日が決まり、帰省に必要な車の乗降、短い距離の歩行を目標にしました。「おうちに帰れるように頑張ろうね」と職員の声掛けに対して、俊さんからも「おとーさん来る」「おうち帰る」などの言動があり、活力に代わる場面もありました。



お父さんと夏祭り

ご家族からの希望もあり、家庭帰省前に見学会を設定しました。見学会では、本人・家族とサビ管・リハビリ職・管理栄養士から生活の様子や、歩行、食事介助、食事作りの交流などを行いました。実際に、移乗や食事介助をご両親にもやって頂きました。

食事について心配の声もありましたが、帰省後の連絡帳には見学会への感謝の言葉がありました。またシチューやごま和えのペースト、おかゆなども手作りしてトロミを付けて介助した様子などの記載がありました。ご両親の努力・愛情が、私たちにとっても嬉しく、心温まる機会となりました。

その後、「お寿司を食べられるようになってほしい」という願いを叶えるため、主治医と確認の上、6月から食事形態の見直し（食上げ）に取り組みました。主治医からは誤嚥性肺炎のリスクを再確認された上で、「熱が出たら肺炎を疑う」と話があり、月2回の往診時に情報交流を行っています。

6月には「トロミ付き粒ありペースト食」を「主菜」のみ「トロミ付き極刻み食」に変え、7月からは「全てのおかず」を「トロミ

ミ付き極刻み食」に変更しました。また8月からは、コーンフレークやパンなど粥状に調理していた物も、そのままの形態で提供するようになりました。

8月帰省後の連絡帳には「冬瓜とそれを細かく切って食べました。豆腐もつぶして口の中に入れるとよく食べてくれました。」と記述があり、家庭でも刻み食を試していただけご様子が伺えました。

## ゆたか

俊さんは先日、一泊旅行に行き、たくさんの笑顔を見せてくれました。

前回10月号で紹介した実践は、「ゼリー食が画期的なものだ」と思い、ペースト食評価の方々に対して、ゼリー食を提供して見えてきた内容を報告しました。しかし仲間たちは、様々な形で反応し、私たちに考え直す機会をくれました。

今月号では「病院での評価を維持する事が大事だ」と考え、俊さんに対しペースト食を安定して提供できる技術を模索してきた取り組みを紹介しました。厨房職員としてご家族との交流や医療連携にも取り組み、食事形態の見直し

の検討にも繋げることが出来ました。入院前は食事に対して拒否を示すことのある俊さんが、退院後は完食が続く「おいしいね」と楽しまれています。今回の実践もまた、今後の重度・高齢化へのステップに繋げていければと思います。

ゆたか希望の家 管理栄養士  
富永 安理沙



一泊旅行 歌います！



笑顔でピース

2024  
9.3~9.10

## 第4回

## ベトナム視察・研修

## ★はじめに

ゆたか福祉会が最初にベトナムのフエを訪れたのは2018年。法政大学の佐野教授にアドバイザーとして着任いただき、厳しくなる人材確保とアジアの障害者問題の課題への活動の一步でした。

2019年にEnjoyable English (以下、E・E) とのパートナーシップ協定を締結し、昨年8月にはフエ科学大学と4団体(ゆたか福祉会、愛光園、名古屋ライトハウス、コープあいち)との、2回目の連携の基

## ★研修の目的と

## ベトナムの福祉政策

今回の研修では、ベトナム中部圏での障害者の就労状況と支援、福祉政策、地域ニーズを探ることを目的としました。フエ、ダナン、ホイアンの3都市で、合計8か所の施設を訪問しました。それぞれの施設で代表や所長の話を伺い、ベトナムの福祉施設の現状や制度、その背景にある社会情勢について学びました。

ベトナムでは障害者が職業訓練で能力を獲得し、経済的自立をするという考え方が基本です。しかし、障害者の就労、継続、定着や、作業内容等のノ

この流れの中に、このベトナム研修があります。単に現地の施設を見学することが目的ではなく、フエ科学大学で行われる「国際セミナー」への出席やプレゼン、フエ外国語大学のセミナー出席と学生との交流もあります。

また、研修スケジュールのコーディネートと引率をE・Eメンバーが行い、研修参加の若手メンバーは、E・Eボランティアのお宅にホームステイをします。直接、ベトナムの文化・生活の中で人々と交流し、障害者福祉・高齢者福祉の現状にふれ、ゆたか福祉会が進めている、循環型海外人材の確保と育成、

ウハウ、アイデアが不足しており、「日本の法人と連携して解決していきたい」という意見が多くありました。

ベトナムでは日本と同様に核家族化、女性の社会進出も進んでおり、福祉の担い手の課題があります。今後ベトナムは社会福祉、社会保障制度が十分に整備されないまま、2030年代の後半から急速に高齢化を迎える国となります。日本のように福祉制度等がある程度成熟してから高齢化を迎えている経験や知見が必ずしも活かされるわけではなく、日本と同じような福祉制度は困難だと考えます。

国際交流の意義を実感でとらえてきます。

今回の研修は、4団体で14名の参加でした。ゆたか福祉会からは、事業部長1名、3年目・6年目の職員3名、そして通訳と事務局で6名です。それぞれの感想や報告を紹介します。



空港ではE・Eメンバーがお出迎え

## ★大学との連携

フエ科学大学とフエ外国語大学で、それぞれセミナーを開催し、障害者、高齢者のケアと支援、就労について学びました。セミナーには学生以外にも、現地の福祉関係者が集っていました。パネルディスカッションでは、様々な意見交換やベトナム現地での課題等が報告され、それに対して日本ではどのように取り組んでいるかの意見交流が行われました。

また、現在大学と連携して行っている循環型人材育成プログラムについて報告をしました。

## ★循環型人材育成プログラム

大学と4法人は連携協定を締結しており、2024年10月までに4法人合計で20人、ゆたか福祉会では10人の海外人材を受け入れています。

フエ科学大学では、フエに高齢者向けの介護施設や、障害者の働く場づくりというプロジェクトがあります。そのため、その運営に必要な「介護や支援の知識、技術をもった人材が欲しい」というニーズがあります。

一方で、日本では労働人口減少に備え「人材を確保したい」というニーズがあります。またゆたか福祉会としては、法人理念の実現に向けて「現地での作業所作り」に携わっていききたいという思いがあります。

こうした「ベトナムで福祉施設の運営に携わる福祉職が欲しい」という思いと、日本での人材不足を解決し、「人材育成を通じて両国の福祉の発展を実現す



フエ科学大学の総長と挨拶する倉地



ホームステイへ。バイクで移動

今回の研修でベトナムの社会性、背景、文化を知り、様々なことを学びました。特に学んだことは「お菓子のパッ

ゆたか希望の家  
倉地伸顕

る」というのが、この循環型人材育成プログラムです。現在、プログラムの一環として日本で働いている人材は、大学を卒業し、且つそこから自分のキャリアアップのために外国で働きたいという向上心、向学心のある人材ばかりです。



フエ外国語大学セミナーで学生との交流

ケージを利用して、カバンなど他の物を作る」といったことです。ベトナムの「無駄にしない」という文化を大切にして、事をくみ取ることができました。

ホームステイでは環境や文化、生活の違いに驚きました。ベトナムの方は welcome 精神が強く、とても優しく接していただき、私たちの世話なども率先してされていきました。まるで自分の姉ができたようで、頼りがいがありました。

このように「私たちが家族のように接する」「ベトナムの協力し合う」という文化」を根強く感じました。また、「ベトナムの実習生との関わりをどうすればいいか」「どうサポートをすべきか」についても、大学生の生の声を聞いて学ぶことが出来ました。これらの学びを、今後、様々な機会に取り入れていきたいです。

ゆたか希望の家  
中村理沙子

ベトナム研修は、私にとって初めての海外でした。「知らない土地でわからない言葉で話をされる」「自分の思いも伝わらない」という経験を、研修中に沢山しました。

特に自分の思いが伝わらない不安を感じ、相手の言いたいことが分からず混乱することがありました。その中でも、相手が一生懸命話を聞いてくれて、



E.Eのハンさん、前田、中村、橋本

自分の思いがジェスチャーや拙い英語で伝わった時はとても嬉しく、安心につながりました。

その経験を経て「仲間も同じような経験をしているのではないか」と考えさせられました。「自分の気持ちを知らないと思ってくれる人がいる」「伝わらなくてもわかるうとしてくれる」「最後まで聞いてくれる」その姿勢が信頼にも繋がると感じました。

この経験を活かして、自分の支援でも仲間と真摯に向き合いたいと思います。また、これから日本へ来られるベトナムの方も、たくさんコミュニケーションをとり、「一緒に福祉を学んでいきたいな」と思いました。



児童の支援施設にて

ゆたか生活支援事業所みなみ  
橋本実波

ベトナムの施設を見学させていただき驚いたことは、「支援者の給料が少なく、大学を出た人が障害者福祉を選ぶことは少ない」ということ、また「日本だと働けるはずの障害のある方が働けない状況もある」という点です。職業訓練場で仕事を学ぶ方もいましたが、場所によっては仕事がなく、一生施設で暮らすという方もいました。

言葉の違い、交通状況、生活環境等、日本との違いが多く、ベトナムから来た方々は「自国との違いに困惑するだろうな」と感じました。ベトナムの学生さんの報告で、「日本人の働き方を知ってからは、日本で働いた方が良い」とありました。ベトナムと日本では働き方に違いがあり、その点でも戸惑うのだと知りました。

また、「教える時はゆっくりと、やさしく教えてほしい」という要望がありました。今後、ベトナムから来て一緒に働いてくださる職員さんに仕事を教える際には、「研修で学んだことを活かしていこう」と思いました。

地域生活拠点事業所まーぶる  
前田ゆきな



# 暮らしの中に彩りを



## 9/20 金 ワークセンターフレンズ星崎 「日帰り旅行」

～浜名湖の遊園地と美食を楽しむ～

今年の行先は「浜名湖パルパル」→「時わすれ開華亭」→「浜名湖グルメパーク」と、遊園地とグルメ観光を巡るコースでした。この日帰り旅行は「自治会行事」として位置付け、仲間が主体的に関われるようにしています。行きたいところをみんなで話し合い、係を決めて準備に取り組みます。

しおり係は旅行のスケジュール、バスの座席、旅行に関連する絵などを書いて、とても素敵なしおりを作成しました。バスレク係は車内で出来るレクリエーションを考え、準備や進行の練習をして当日に臨みました。

当日は真夏日！静岡 38℃?!と、暑さが厳しい天候でした。行きのバス内では、バスレク係が準備した絵当てクイズや音当てクイズ、風船リレーで盛り上がりました。パルパルでは、事前に希望をとった乗り物に乗れるように、みんなで協力し合って園内を回りました。時間も少ない中、猛暑にも見舞われ大変ではありましたが、皆さんの良い笑顔が見られました。



近くのホテル「時わすれ開華亭」では、浜名湖を見ながらリッチな昼食を愉しみ、最後に「浜名湖グルメパーク」でショッピングやスイーツを堪能して、無事に旅行を終えることが出来ました。

住屋 信吾

## 9/28 土 リサイクル港作業所 30 周年 記念日帰り旅行

記念旅行で訪れたのは、トヨタ会館、蒲郡オレンジパーク、刈谷 SA。今回はリサイクル港作業所が 30 周年ということで、家族会の方々にも御参加いただき、総勢 46 名で出掛けました。

今回の旅行テーマは「30 周年を迎えたりサイクル港作業所のこれからの仕事をより良くしていく」です。テーマを達成するために、まずトヨタ会館を見学し、トヨタが行っているオンライン学習会に参加しました。この中で、作業の工夫や安全に向けた取り組みを学ぶことができました。

移動のバスの中では「30 周年記念クイズ」を行い、その中で 30 年前から働いている仲間や、そのご家族から当時のことを語っていただきました。仲間や職員の知らない情報も数多く話され、とても貴重な時間でした。

蒲郡オレンジパークでは、「3 大ブランド牛御膳」を食べました。作業所ではコロナの影響で、仲間・職員が全員揃って食事をするという機会がありませんでした。久しぶりに全員で会話を楽しみながら、美味しく食事を頂きました。

刈谷 SA ではグループごとに分かれて行動をしました。お土産を購入したり、観覧車に乗ったり、仲間たちの希望に合わせて施設内を回りました。仲間たちからは「また来年も行きたい」という感想が多く出され、充実した日帰り旅行だったと感じています。また、家族会の方々からも好評で、こうした家族の方々との交流の機会も増やしていければと感じました。

岸野 翼



# リフォームが終わりました！

## あかつき共同作業所キレイになったよ 大規模修繕を終えて

あかつき共同作業所は開所してから33年が経過し、建物内の老朽化が進み、修繕が長年の課題となっていました。そしてこの度、「社会福祉法人清水基金」様よりトイレ修繕の補助金を頂き、修繕ができることになりました。

工事は大昭建設様にお願いくることになり、5月から始まり9月末にはすべての工事日程を終えることができました。仲間たちの活動をしながら行った工事で、業者の方々も慎重に安全を確保しながら行っていました。

暗くて長年の汚れが目立っていたトイレは、これまでよりスパー



スガ広く、床もフラットになり、シャワー付きユニットトイレもできました。



スガ広く、床もフラットになり、シャワー付きユニットトイレもできました。全体として明るく清潔感のある雰囲気です。

修繕工事のため中止としていた「あかつきまつり」や、お休みしていたパンの販売の問い合わせがあり、「それなら！」と10月13日、お披露目を兼ねたバザーを開催しました。

今回の修繕を通じて新たな課題や発想も出され、将来構想にもつながるものとなりました。補助金を頂いた「社会福祉法人清水基金」様、また工事業者の皆様にご心よりお礼を申し上げます。

あかつき共同作業所  
源平 由佳

## 念願のリフォームでより快適な空間に

9月初旬から、「グループホーム宝南の家」の大規模修繕が始まり、約1ヶ月かけて工事が終了しました。

設立以来、年々傷みが目立つようになっているものの、大きな修繕をすることもなく過ごしてきました。車いす生活の利用者様も増えており、不便な場所もあり、念願の大規模修繕をすることができました。

台所・浴室・脱衣場・トイレ・フロアリング等、生活しながらの修繕は認知症の方にとっては、いつもと違うことが続き、ご不便をおかけしたことと思います。

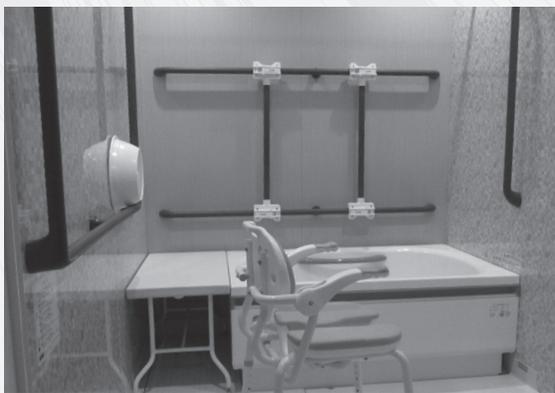
台所が使えない間は、隣のスーパーへ一緒に食事を買に出かけました。するとほとんどの方がお寿司を選ばれ、おいしそうに召し上がっていました。他の外食にも出かけましたが、今年は9月でも猛暑日が続く、体に堪える外出になってしまいました。

また「デイサービス宝南」の大浴場をお借りし、いつもと違う広いお風呂や機械浴等で入浴を楽しまれて

いました。工事による停電や断水が、災害時にも通じる動きとなり、職員にとっては貴重な経験になりました。

新しくなったホームでの生活は、利用者様にとっても職員にとっても、快適な空間となっています。今は、工事が終わり、穏やかな日々の中に笑顔のたえない日常が戻っています。

グループホーム宝南の家  
所長 松尾 陽子



# 能登半島被災地支援 その2

ゆたか福祉会の能登半島被災地支援は、6月初旬の第5クールからスタートしました。  
今回は能登半島出身の職員が参加しました。

## ともにある能登 ～つながる大切さを実感～

ゆたか生活支援事業所みなみ 木村 美紀

JDF 能登半島地震支援、第18クール(9月16日～9月21日)に参加しました。最終日9月21日には「大雨特別警報」が発令され、能登を記録的豪雨が襲いました。甚大な被害報道に「帰ってきてよかったのだろうか」との思いに駆られた被災地支援でした。

石川県能登半島は、私の故郷。1月1日午後4時過ぎ、勤務中に突然の「速報メール」「緊急速報」。「まさか」「だいじょうぶか」と母親の動転する声が今でも忘れられません。

今回「能登のために、微力ながら役に立ちたい」「天災は、明日は我が身」と、いてもたってもいられない思いで参加しました。



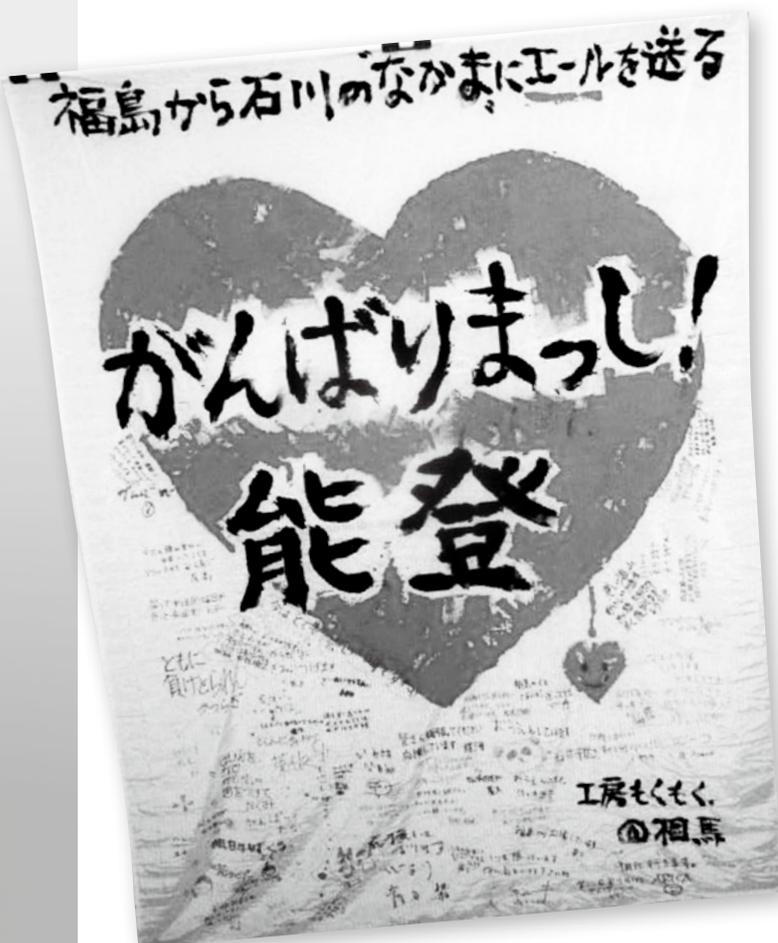
写真で見る現状

視察は見覚えある「和倉温泉」。道路が歪み、旅館の外壁から内壁までもが剥がれ落ち、景色は一変していました。また、輪島朝市の惨劇や倒壊ビルの姿。珠洲市の壊滅的な家屋。記憶にある大切な故郷には、想像を絶する景色が広がっていました。

応急危険度判定「赤紙」が日に焼け、「白色」に変色するほど時間が過ぎても、復興は進んでいません。1月1日、そこには新年を迎え、家族で祝う穏やかな生活がありました。そして今、8カ月が過ぎても、過酷な避難生活を続けておられる皆さんがそこにいます。JDFの活動は、報道や人づてに支援が繋がり、支援活動に繋がっていることも実感しました。

今回、個別支援に入らせていただいた高齢女性から「過酷な避難生活の中でも、互いに助け合い、生活を送った」とお話を伺いました。相手を思いやる素朴で温かいお人柄が伺え、「能登はやさしや 土までも」を自然と体現される方にもお会いしました。

私も能登の遺伝子に恥じぬよう、復興への歩みを止めぬよう、行動していきたいと思いました。





9月

- 3日(火) ベトナム視察研修(～10日)
- 4日(水) フォローアップ研修
- 6日(金) 食と健康推進委員会
- 7日(土) 日中事業所合同職員研修
- 9日(月) 事業運営推進会議
- 10日(火) 保護者連合会研修会
- 11日(水) 法人安全衛生委員会
- 13日(金) 新管理職合同研修
- 17日(火) 広報・ホームページ編集委員会
- 19日(木) 権利擁護・虐待防止会議
- 24日(火) 職員ハンドブック改訂委員会
- 25日(水) 副所長会議
- 30日(月) 研修部会議

**賛助会員新規加入者**  
**更新者ご芳名一覧**

(9月30日～10月19日 手続き分)  
順不同敬称略

石元 憲明  
山崎 恭裕  
原山法律会計事務所原山剛  
山崎 敦

**清水基金補助金事業完了報告**

あかつき共同作業所 トイレ修繕工事  
工事担当 有限会社大昭建設  
工事完了日2024年9月27日

補助額 10,000,000円  
工事費用 19,030,000円

## 表紙の作者紹介



**「中秋の名月」**  
「グループホーム宝南の家」のみなさん

今回の作品は「秋に向けて何か作れたらいいな」と、気軽な気持ちで皆さんに声をかけて始めました。

見本を参考にして、水野つや子様、江間明美様、渡邊君子様、そして職員のオアンさんの4人での取り組みです。それぞれが自然と、「切る係」「パーツを作る係」「貼る係」と分かれ、手際良く作業され、1日で仕上がりました。

作品見本はあったものの「こうがいいんじゃない?」「こっちの方がいいんじゃない?」と楽しそうに相談されながら、最終的には、グループホーム宝南の家オリジナル作品となりました。

**広報・502号**

2024年11月号(2024年11月10日発行)  
定価1部200円  
法人協力会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます

発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会  
印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協力会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協力会費 = 年間1口6,000円、  
賛助会員(個人1口3,000円、企業団体等1口5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

- ・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
- ・中京銀行 鳴海中央支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

# 2025 カレンダー販売の 取り組み始まる!

多くの皆様のご協力をお願いします。



今年もカレンダー販売の時期を迎え、各事業所では10月後半から仲間たちや保護者の皆さんが中心となり、カレンダー販売の取り組みがスタートしました。

このカレンダー販売の取り組みは、今から40数年前の年末、「仲間たちのボーナス資金を作り出そう!」と始まりました。その後もこの取り組みは引き継がれ、現在も法人の自主財源づくりの活動として、多くの皆さんにご協力を頂きながら取り組む大切な活動となっています。

お問い合わせはこちら

☎ 052-698-7356

法人本部 二村まで

\*チラシ・注文書などの送付をさせていただきます。 \*各施設でも取り扱っております。



# 3回目の成人式を 迎えました★

今回の連載で13回目となる「3回目の成人式」特集です。トピックスは、全員ではありませんが、日時を設定し、初めてセミプロの方に写真を撮っていただいたことです。写真は額に入れてプレゼントすることにしました。

何歳になっても夢や希望を持ち、自己決定をしながら、その人らしい生活が送れるように伴走していきたいと思います。

## ● ゆたか希望の家

## 竹川 昌代さん



竹川さんは1989年からゆたか希望の家に入所されています。日中活動では「くりのき班」に所属し、マット編みや広報誌を封筒に入れる作業などを行っています。仕事を笑顔でされており、やりがいを感じられているようです。近所で行った盆踊りでは、自分たちで作ったビーズやタッセルを、売り子として笑顔で接客を頑張っていました。

生活棟では他の仲間のお世話をよくされたり、段ボールの片付けを手伝ってくれたりと面倒見の良い方です。敬老会では還暦という事で、赤いちゃんちゃんこを着て皆さんにお祝い金と「おめでとう」の声をいただきました。

これからも竹川さんの笑顔で、皆さんを明るく照らしてほしいです。

## ● みらいろ&

## 地域生活支援拠点事業所まーぶる 有馬 清高さん

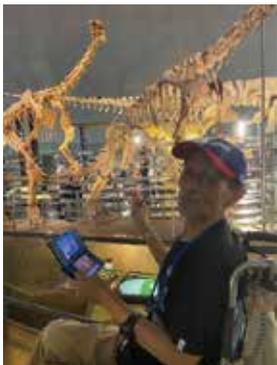


一般就労を経て、2020年3月から「みらいろ」の利用が始まりました。初めての作業については、納得するまで確認しながら、慎重に取り組まれます。また、作業の手順を新たに考えるなど、実際に「有馬方式」として取り入れ、様々な工程で活躍されています。とても社会的で、本や遊び道具を持ってきては、仲間や職員と一緒に遊び、「またやろうな」と楽しまれています。

9月19日、自治会で還暦を祝う会を開催しました。昨年4月の還暦は、病院のベットで迎えられた為、1年越しの開催となりました。

みんなからお祝いの言葉と記念品を受け取り、「みなさんありがとうございます。これからも仕事を頑張ります。」と挨拶をされました。仕事に対する熱い気持ちを宣言される姿がとても印象的でした。

これからも一緒に色々な仕事に取り組んでいきましょうね。



清高さんは昨年の12月から、「まーぶるホーム」で生活されています。ホームでの楽しみはティータイムとヘルパーさんと行く余暇外出です。「今日は水族館!」「大須!」「ららぽーと!」「CD買う!」など、たくさん提案して頂けるので助かっています。

最近では「南障会」の旅行に参加されました。昔からの仲間・職員に会うことができ、「また来年も行くよ!」と、もう来年の参加を表明されていました。

これからも健康に気をつけて、いつまでも元気な清高さんでいてください。

# 私たちが 3回目の成人式を迎えました!

## ● つゆはし作業所 & ゆたか生活支援事業所なかがわ

### 後藤 義宏さん



毎月「皆勤賞」の後藤さん。数字に強く計算もお得意です。つゆはし全体の役割では、その得意を活かした委員として、現場内では生産係とご活躍されています。部材の残数が少なくなること、誰よりも早く気づかれ「もうそろそろ出す？」と職員に声をかけて下さる姿は、まさしく仕事人です!

また、実習に訪れるなかまや学生さんにも、自ら声をかけられる等、優しい先輩としても頼りになる存在です。「つゆはし作業所とホームは、僕の居場所だ」と思っていただけのように、引き続き、みんなで色々な経験をしていきましょう!! これからも元気に作業所へいらしてください。3回目の成人式、誠におめでとうございます。

後藤さんは2020年4月に、「上脇ホーム」に入所されました。ゆたか福祉会との出会いは古く、養護学校を卒業後に「つゆはし作業所」に通うようになりました。



ホームでは職員にお手紙を書いたり、休日のヘルパー外出を楽しみにしながら過ごしています。話をするのも大好きで、作業所であったこと・テレビで見た気になったニュースを、職員に教えてくれることもあります。

他の仲間が還暦を迎えると「僕も、もうすぐ還暦だよ」「お祝いしてもらえるかな?」と、来年2月に還暦を迎えることを楽しみにされています。

また「仕事を休まずに、給料をたくさん稼ぎたい」という力強い想いを抱いています。後藤さんの持ち前の「明るさ」「力強さ」を大切に、これからも楽しくホームで生活を送っていきましょう!

## ● ゆたか作業所 & ゆたか生活支援事業所あつた

### 加納 和彦さん



加納さんは、生活施設からゆたかホーム太陽への転居をきっかけに、2023年から作業所利用を始めました。「りらく作業現場」で毎日元気に過ごされています。朝、元気な「おはよう!」から始まり、軍手の仕事(点検)では、穴あきを見つけると嬉しそうに報告。

外出も大好きで、ハンドルを回すジェスチャーをし、散歩に行く時は「さんぽ?」「さんぽ?」と繰り返し、楽しみにされています。咳をしたり、腰をさすっている人には「いたい?」と気かけ、声をかけています。

現場で行った3回目の成人式では、みなさんから「仕事をまじめにやっている」「(車いすの仲間から)現場から出る時に、ドアを開けてくれて優しい」「とても元気」など褒められて照れ笑い。人生100年時代。これからも元気に笑顔いっぱいの加納さんとみんなで一緒に、いろいろなことにチャレンジしていけたらと思います。



加納さんは昨年4月に、「ゆたかホーム太陽」に入居され、早くも1年が過ぎました。ホームでの生活は、月に1回ヘルパーさんとの外出や、ホーム職員と一緒にスーパーやコンビニに行って、お昼ご飯を購入しています。持ち前の社交的で明るい性格で、すぐにホームの仲間とも打ち解ける事ができました。

食べる事が大好きで、夕食前にはよく「ごはん?こんなの?」とジェスチャーを交えて話され、ご飯を楽しみにされている様子が伺えます。

ホームでは、加納さんの好きな事やできる事、得意な事を少しずつ発見する事ができたらいいなと思います。今後も明るく元気な加納さんで過ごしていただきたいです。

# 私たちが 30日目の成人式を迎えました!

## ● リサイクルみなみ作業所& ゆたか生活支援事業所かさでら

白石 勲さん



白石さん 60歳の還暦おめでとうございます。

9月のお誕生日には、お母様から赤いリュックサックをプレゼントして頂きました。作業所では年明けの新年会でお祝いを予定しています。

白石さんは1980年に「ゆたか作業所」に入所されました。その後1984年からは「リサイクルみなみ作業所」で働いています。お給料で白いズボンや、たい焼きなどを購入するのを楽しみに、暑い日も寒い日もペットボトルのリサイクルのお仕事を頑張ってみえます。

休日には大好きな電車を見るために、自転車に乗って遠くまで出かけることもあります。ホームでは好きなものに囲まれ、ピンクレディーを聞いて過ごしています。

これからも健康に気を付けて、楽しく過ごしてください。

ひらぎホームでの生活は、毎日お風呂に入り、大好きなピンクレディー、宇宙戦艦ヤマトを聞いて、時には唄ったり、手でリズムを刻んだりしてリラックスされています。



休日は大須や栄、名駅まで自転車でお出掛けをされます。雨の日も風の日も外出され、コンビニで買い物、リサイクルショップで好きな白いズボンや、鉄道・新幹線の本を購入されます。今では本棚に収まりきらない程になっています。

癒し系のキャラクターで、好きな事は「スキー」「ホームすきー」「〇〇さんねー」と笑顔で応えてくれます。嫌な事に対しては、明らかに怒った表情をされ、自分の意思を表現してくれます。先日、長野に住むお母様よりお祝いの赤いリュックを貰い、お礼の電話をかけた白石さんです。

## ● ゆたか生活支援事業所みなみ 杉浦 清さん

清さんは「第一八光荘」に入所されて10年以上が経ちました。平日は日中活動を行う「るっくコーポレーション」という生活介護に通われています。

休日はヘルパーさんとお出かけをしたり、1人でも栄に出かける活動的な方です。旅行やお出かけ等のイベントが大好きで、今年の3月には食事処でホームの仲間と一緒に誕生会を行いました。

妹さんと仲が良く、妹さんからは「これからも元気で楽しく過ごしてほしい」とメッセージをいただきました。ご本人も健康には気を付けておみえです。「ホームの仲間とこれからも、元気いっぱい過ごしていきたい」とおっしゃっていました。



# 私たちが 30回目の成人式を迎えました

## ● あかつき共同作業所&

### ゆたか生活支援事業所尾張

#### 山中 五美さん



五美さんは、2011年に「あかつき共同作業所」に入所されました。作業所では「サクラ班」で、自動車部品を輸送する際に必要な緩衝材を作っています。とても重要な検品では「鉄壁の守り」で、不良品を絶対に見落とすことはありません。

不良を見つけたら、作った仲間に「ここ曲がるとるよ」などと教えてあげます。優しい言い方なので、自分が作ったものを指摘され返されても、仲間たちも嫌気はしません。五美さんがあかつきの仲間たちに人気のある所以のひとつです。

みんな五美さんのことが大好きです。これからもお元気で、みんなと楽しく過ごして下さいね。

## 「年を重ねてもビジュアルへの興味は尽きず」

「ケアホームあかつき」に暮らす五美さんは、今年5月に還暦を迎えました。趣味は、絵画、デジカメでの写真撮影、映画鑑賞、TVドラマ視聴などです。こうしたビジュアル面への興味の強さから、感受性の豊かさが感じられます。



還暦を迎えての気持ちや「これからやってみたいこと」などを、先日改めてお聞きしました。「う～ん、あんまかわらないかなあ」「あっ、でも絵は描いていきたいな」「それと映画も見に行きたいね」と話してくれました。

先日、ヘルパーさんと映画鑑賞から帰られてすぐ、スケッチブックに描いていた絵を紹介します。職員が「すごい!」と感じたのは、パンフレットなどを見ながらではなく、頭に残った画像のイメージで描ききっていたことです。

最近は、単に絵や写真を眺め、模写のように描くだけでなく、それをもとにアレンジして自分の創作物にすることもあります。

還暦を迎えても、趣味の絵画や映画鑑賞への興味を失わず、世界もひろがっています。きっとこれからも、その心持ちは失わないでいらっしやると思います。

## ● 地域生活支援拠点事業所 まーぶる

#### 平岩 孝之さん



平岩さんは2024年の7月からショートステイを利用され、9月に新しい仲間として入居されました。そして10月にめでたく還暦を迎えられました。

まだ、「まーぶる」を利用して日が浅いですが、職員や仲間から声をかけてもらって日々楽しく過ごされています。週末には自宅に帰省され、家族との生活も大切にされています。

日中は、もともと利用されていた「デイサービス友」と「ゆたかデイサービス」をあわせて週3日、利用されています。「デイサービスはどうですか?」と伺うと、「デイサービス楽しいよ!!」との言葉をいただきました。

お休みの日には、大好きなテレビを見て過ごされています。これからも自分らしく、楽しい生活が送れることを願っています。

# 私たちが 30回目の成人式を迎えました!

## ● トライズ& ゆたか生活支援事業所みなみ 小西 浩忠さん

2013年に将来のことを考えてご実家から通勤寮に入寮され、2015年に現在の第二八光荘に入所されました。

電車が大好きな小西さんは、きょうされん大会には新幹線に乗って参加されます。京都にある鉄道博物館の見学をすることも楽しみにされています。また来年には「お肉と温泉!」「電車!」という小西さんの希望で、有馬温泉で神戸牛を食べる旅行の取り組みも企画しています!楽しみにしててくださいね!

これからもホームで楽しい思い出をたくさん作っていきましょう!



上浜作業所、ゆたか作業所リサイクル現場を経て1992年4月、事業開始間もない資源回収事業部(現トライズ就労継続支援A型事業)にゆたか福祉会の職員として就職されました。今年で32年になります。現場では2番目の大ベテランです。空きビンを集めるクレーン車の作業員として、昭和区を中心に一日かけて回っています。

仕事ぶりは、「慌てず・動じず」のマイペースな小西さんですが、確実性はピカイチ。毎日まわる何百か所ものビンの収集ポイントがしっかりと頭の中に刻まれており、まさに「安定・安心」の小西さんです。また昼休みにはさりげなく、食堂のゴミ箱を自主的に片付ける事を日課とし、日々感心させられています。

これからも健康と安全に注意しながら、頑張ってくださいね。

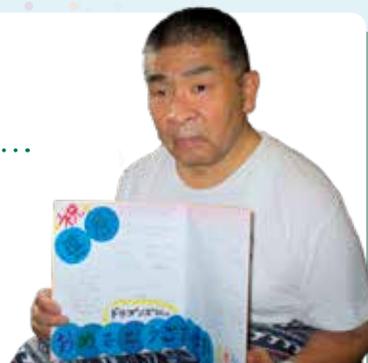


## ● リサイクル港作業所 高木 俊克さん

1994年4月から作業所を利用している高木さん。今年8月、めでたく還暦を迎えました。現場ではベルトコンベアの上を流れる大量のビンの中から、黒いビンを取り除く作業をし、長く作業所を支えていただいています。

自分の気持ちをうまく表現したり、積極的に話し掛けたりすることはあまり得意ではないですが、好きなプロ野球や時計収集の話題になると、優しい表情を浮かべています。

現場で準備した還暦のお祝い色紙を手渡すと「(作業所)行く。」と久々に来所することができました。なかまに「ありがとう」と伝え、現場に足を運ぶ様子が印象的でした。作業所の仲間、職員一同、高木さんとまた一緒に働ける日を待ち望んでいます。



# 私たちが 3回目の成人式を迎えました!

## 自然ゆたかなキラリンと一ぷで暮らしています!

### 近藤 厚さん

1999年3月に第2ゆたか希望の家に入所された近藤さん。20数年を仲間と過ごし、今はとても落ち着いた生活を送られています。作業所班では、木工製品の磨きに取り組んでいます。磨き作業が終わると「できました!次の板ください!」と笑顔で伝えてくれます。

カラオケも大好きで、「ヤングマン」「ドラえもん」を熱唱してくれます。還暦を迎えましたが、これからも元気に皆と楽しく生活をして欲しいと思います。今は、一日外出で遊園地に出かけることを楽しみにされています。3回目の成人式おめでとうございます。



### 松井 香澄さん



松井さんは、ゆたか作業所に通っていましたが、2005年に第2ゆたか希望の家に入所されました。日中は作業所班に所属しています。得意な絵やデザインが、写真立てやマグネットフックに活かされています。また作業が丁寧なので、急ぎの木工製品の仕上げなども依頼されることもあります。ハウスでも絵を描いたり、折り紙をしたりと創作活動が大好きです。

最近、外出が多くなってきました。先日も大好きなカラオケに行って、十八番の「手紙」を高らかに歌い上げました。コンビニに出かけ、お菓子を買に行ったりもしています。

12月で3回目の成人式を迎えます。これからも怪我や病気がなく、楽しい生活が送れるといいですね。そして4回目の成人式を迎えましょう。

### 村松 つね子さん

村松さんは開所当時からグループハウスなぐらに入所されています。昨年度の施設統合により、キラリンと一ぷで生活をされています。にこやかに笑ってお話をされ、冗談も言って笑わせてくれます。日中活動の「ひだまり班」では、ポッチャなどのゲームに参加し、チームの戦力となっています。季節の飾り作りも、持ち前の器用さで上手に仕上げてください。頑張り屋さんで、以前は漢字検定に向けて勉強を続けていました。

外出や買い物を楽しみにされています。先日は浜松でランチを食べ、遊覧船を楽しんで来ました。また毎週生協で、フルーツやお菓子などを購入する事も楽しみにされています。これからも楽しくお過ごしください。



### 山瀬 浩司さん



山瀬さんは1998年10月1日、第2ゆたか希望の家開所から利用されています。利用されてからは、作業所班での作業をしていましたが、現在は居室でゆっくりと自分のペースで毎日過ごされています。日中はなぐらの大自然を全身で感じながら散歩をし、道中にある自動販売機でコーヒーを買って飲む事が1番の楽しみです。買い物やドライブ、外食などの外出を楽しみにされています。

還暦のお祝いでは、赤いちゃんちゃんこを着ました。少し緊張気味な表情でしたが、赤にちなんだ大好きなお菓子ももらって、おいしそうに食べていました。これからもキラリンと一ぷでゆっくりと過ごしていただきたいです。3回目の成人式おめでとうございます。